

マツノマダラカミキリに関する研究 (I)

— 羽化脱出から餌木に集まるまでの期間 —

林業試験場九州支場 岩 崎 厚
森 本 桂

羽化脱出をしたマツノマダラカミキリは、ある期間後食を行なって内部生殖器が成熟してから、餌木に集まってくるようになる。生殖器が未成熟の間は、餌木など産卵誘引源を用いての生態調査の際、無反応期間となることで調査が困難であり、他方このカミキリムシが運ぶ材線虫が虫から殆んど落ちることで重要な期間である。この期間がどの程度であるか調べた結果を報告する。

調査方法

- 1) 羽化脱出直後の成虫を網寮で飼育して、餌木への産卵状況を調べた。
- 2) 羽化脱出した成虫に個体番号をつけて支場実験林に放し、放虫点を中心に100m²か所, 200m⁴か所, 500m²か所計8か所に設置した餌木に集まる虫を回収した。放虫個体は、剥皮して十分に乾燥させた被害丸太から羽化したもので、材線虫は全くついていない。

調査結果と考察

飼育によって確認した結果は表1に、また番号虫の回収した結果は表2に示した。

雌1頭あたりの平均産卵数が1になるときを平均産卵開始日とすると、それまでの期間は20~21日となり、今まで報告にある3週間前後(越智1969年)や20日~30日(遠田, 野淵1970年)の報告と同じ結果となるが、個体によってはこれよりはるかに早く、材線虫落下最盛期頃から産卵を始めるものがあり、マツ類伐倒木や餌木に材線虫が繁殖することを裏付ける結果をえた。

番号虫の最初に回収された日は雌では7~13日後で、雄では3~24日と大きなふれであった(表2)。

要 約

1. マツノマダラカミキリ雌の羽化脱出から産卵までの期間は、最も短かいもので1週間、平均3週間である。
2. 雄については、餌木に最も早く集まったのは3日後であった。

参 考 文 献

- 越智鬼志夫：日林誌 51(7)：188~192, 1969
 遠田暢男・野淵輝：81回日林講：274~276, 1970
 森本 桂・岩崎 厚：日林誌 54(6)：177~183, 1972

表1 網寮での飼育による雌の羽化から産卵までの日数

飼育頭数	羽化		最初の産卵		2回目の産卵		1♀平均産卵数が1になるまでの日数
	月日	産卵日	日数	産卵日	日数		
♂10 ♀10	5.29	6.17	19	6.18	20	—	—
10	10.6	5.6.21	16	6.23	18	—	—
15	15.6	13.6.23	10	6.26	13	20	20
10	10.6	13.6.19	6	6.24	14	14	21

表2 野外放虫による羽化から餌木での回収までの日数

放虫月日	放 虫 数		回 収 数		回 収 までの 日 数	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀
5.30~6.10	261	160	15	2	3~46	7~41
6.11~6.20	225	150	11	6	24~46	11~63
6.21~6.30	153	147	7	6	18~27	12~49
7.1~7.12	151	199	8	8	12~39	13~45
計	795	656	41	22		